

はばたけ世界へ南東北総体 2017 大会レポート

「繋がる絆魅せよう僕らの若き力」

全国高体連テニス専門部
常任委員 岸 徹

<はじめに>

大会スローガンである「繋がる絆魅せよう僕らの若き力」。これは、温かい支援を受け復興の歩みを進める東北で、選手の皆さんと全国の人との繋がりを感じながら、若さあふれる力を發揮し、多くの人を魅了する大会にしたいという思いが込められている。

単に勝敗だけでなく、相手を尊重する気持ち、スポーツマンシップにのっとったフェアープレー、そしてチームワークや全国から集まった仲間たちとの交流を深め、一生の思い出となる大会になることを期待しスタートした。

<開会式>

8月1日（火）テニス競技開会式が会津若松市會津風雅堂ホールにて行われた。開式通告に始まり、昨年度優勝旗・優勝杯返還が終わり、室井会津若松市長はじめ歓迎の言葉が続いた。中でも高校生を代表して地元会津高等学校上島花菜さんのことばに会津の風土を表す「会津の三泣き」の話、会津藩校日新館の教えが礎になっている「あいづっ子宣言」の紹介そして東日本大震災から6年、まだまだ険しい復興の長い道のりの中震災を通して学んだ、当たり前の生活のありがたさ、人ととのつながりの大切さを選手のみんなに訴えかけた言葉。そして最後に会津弁で「あしたから きいつけて がんばってくなんしょ」で締めくくられた挨拶に福島県の今回のインターハイに対する思い入れが感じられた。



<団体戦>

男子団体ベスト8は、次の学校

相生学院（兵庫）・大成（東京）・清風（大阪）・大分舞鶴（大分）・光泉（滋賀）・岡山理大（岡山）・柳川（福岡）・秀明八千代（千葉）。

8校のうち3校ノーシードから勝ち上がるという混戦の中決勝に勝ち上がったのは、第

1シードの相生学院と第2シード秀明八千代のトップ2シードによる東西対決となった。

決勝まで1試合もセットを落とさず勝ち上がってきた相生学院に対して、秀明八千代高校は1回戦から接戦をものにしてきた。3面展開で始まった決勝戦は、3試合とも序盤から相生学院ペースで始まり3試合とも相生がセットを取った。中でも相生学院のNO.1菊地裕太③の強さは際立ち、第2セットに入っても勢いが止まらず、ねばる秀明八千代高校の白石光②を圧倒し1時間足らずでまず1勝を挙げた。試合を決めたのは山本瑠樹亜③・名越大地③のダブルス、シングルスNO.2阿多竜也②もほぼ同時に勝利を挙げ、終わってみれば3-0の圧勝で相生学院が2年連続インターハイ優勝と春の全国選抜高校テニス大会に続く優勝を決めた。



女子団体ベスト8は、次の学校

相生学院（兵庫）・松商学園（長野）・早稲田実業（東京）・湘南工大附（神奈川）・岡山学芸館（岡山）・愛知啓成（愛知）・四日市商業（三重）・柳川（福岡）

女子は、過去例のないくらいのシードダウンの大会となった。4シードでベスト4に残ったチームは岡山学芸館のみ、残り3校は、第1シード相生学院に勝った松商学園、第2シード柳川に勝った四日市商業そして第4シード湘南工大附に勝った早稲田実業でいずれもノーシードから勝ち上がった。準決勝は、2試合とも一進一退の戦いとなり、予想もつかない攻防になったが、決勝に残ったのは、初のベスト8に入って勢いよく松商学園と、同じく初優勝を狙う四日市商業であった。決勝戦は3面展開で行われ、どの試合も序盤から拮抗した展開で進んでいった。最初に四日市商業シングルスNO.2吉田明日香③が接戦から相手のサーブをブレークしセットを取ると、第2セットも、その勢いで完勝。

シングルスNO.1の吉岡希紗②も接戦から相手サーブを攻め1セット目を先取、今大会粘りで勝ってきた松商学園笠原沙耶③を第2セットも4-3から攻めてブレークしそのまま押し切った。松商学園は、今大会負け知らずのダブルスで勢いをつけたかったが、四日市商業に主導権を握られ勢いがつかなかった。結局2-0で四日市商業が初優勝に輝いた。



<個人戦>

男子シングルス

ベスト8は、菊地裕太③（相生学院）・佐々木健吾③（高松北）・中川舜祐③（光泉）

白石光②（秀明八千代）・田口涼太郎②（大分舞鶴）・星木昇③（岡山理大附）・武藤洸希③（大成）・丹下将太②（早稲田実業）

中川舜祐③（光泉）は、ノーシードから第5シードに勝ち、その勢いでベスト8に入った。ベスト4に残った4人はいずれも4シードの選手。ただ、菊地裕太③（相生学院）以外の白石光②（秀明八千代）・田口涼太郎②（大分舞鶴）・丹下将太②（早稲田実業）は、苦しみながらも接戦をものにして勝ち上がる。第1シードの菊地裕太③（相生学院）は、今大会団体も含めシングルスは圧倒的な強さを見せ、1回戦からほとんどゲームも与えず田口涼太郎②（大分舞鶴）との決勝でも0-3スタートであったが、そこから6ゲーム連取して6-3。セカンドセットも第5ゲームを落とすのみで結局6-3 6-1と圧勝し全国選抜高校テニス大会の個人戦と2連勝した。



女子シングルス

ベスト8は、伊藤さつき②（相生学院）・川岸七菜②（法政二）・平田歩③（岡山学芸館）・西郷里奈②（秀明八千代）・阿部宏美②（愛知啓成）・齋藤唯①（早稲田実業）・輿石亜佑美②（浦和麗明）・安藤優希②（日出）

ベスト8のうち3年生は平田歩③（岡山学芸館）ただ一人、しかも団体同様女子は、シード選手がほとんど途中敗退と大混戦の中、第5シードで3年生の平田歩が意地を見せ見事岡山県に38年ぶりの優勝をもたらした。決勝の相手輿石亜佑美②（浦和麗明）もプロの試合に出場しており、その経験を活かす試合巧者ぶりを發揮し第2セットを取って1-1でファイナルセットにもつれ込んだが、平田歩が3年生の意地で勝利をつかみ取った。他のベスト4は、第1シード棄権のブロックから勝ち抜いてきたノーシード伊藤さつき②（相生学院）と第3シードを守った阿部宏美②（愛知啓成）であった。

男子ダブルス

毎年どこが勝つかなかなか予想がつかないダブルスであるが、今大会快進撃を続ける相生学院がダブルスでも力を示した。一つの高校が4シードに3組入るのも珍しいことだが3組ともベスト4に進出。優勝したのは第3シードの菊地裕太③・平川暉人③（相生学院）組。準決勝では同じ相生学院の中山瑠樹亜③・名越大地③（相生学院）組に第1セット5－



7で取られ、第2セットも0－3までリードされるという劣勢から逆転、6－4で取り、その勢いでファイナルセット6－2で勝利した。第1シード阿多竜也②・丸山隼弥②（相生学院）組は、順当に決勝まで来たが、菊地・平川組に5－7 5－7で接戦をものにできず準優勝。

あと一組のベスト4に入った松下龍馬①・間仲啓①（秀明英光）組は、1年生でノーシードから勝ち上がった。相生学院の2年生ペア、秀明英光の1年生ペアとともに、これからが楽しみである。

菊地裕太③（相生学院）は3冠を達成、6年ぶり18人目の快挙を成し遂げた。

女子ダブルス

今大会の女子は、すべての種目でシード関係なく大混戦となった。特にダブルスは、ベスト4に残ったチームはいずれもノーシード、我那覇真子③・前田優歩②（沖縄尚学）組、酒井凜②牧由貴菜①（広陵）組、笠原沙耶③・川島和奏③（松商学園）組、吉岡希紗②・原田真実子②（四日市商業）組の4組。優勝は、昨年2年生で優勝した我那覇と前田のペア。1回戦より巧みな後衛のストロークと素早い動きと抜群のポーチボレー、スマッシュを決める前衛と息の合ったコンビネーションで決勝まで進む。反対の山からは、団体戦で優勝したシングルスNo1とNo2が組んだ四日市商業の吉岡・原田組、2人のパワーあふれるストロークで相手を崩し前衛が決める攻撃的なダブルスで勝ち上がった。決勝の第1セットは、我那覇・前田組が吉岡・原田組の攻撃的なボールをうまくとらえ6－3先取。一方吉岡・原田組は、第2セットに入っても終始攻めのストロークでストレートや前衛アタックなどで相手前衛の動きを止め、逆に6－3で四日市商業が取り返し、ファイナルセットへ。ファイナルセットは、お互いの持ち味を出し合いタイブレークの接戦にもつれ込んだが、最後は、ワンチャンスをものにした沖縄尚学の我那覇・前田組が優勝をつかみとった。

